田島支援学校版（図工・美術）

小学部・中学部・高等部　学習段階表

令和4年　12月発行（第2版）

川崎市立田島支援学校

図工・美術（表現） 学習段階表

		身の回りにあるものや自分たちの作品などを鑑賞する活動						中学部				高等部			
		1段階		2段階		3段階		1段階		2段階		1段階		2段階	
	領域	ア 線を引く，絵をかくなどの活動		ア 身近な出来事や思ったことを基に絵をかく，粘土で形をつくるなどの活動		ア 日常生活の出来事や思ったことを基に絵をかいたり，作品をつくったりする活動		ア 日常生活の中で経験したことや思ったこと，材料などを基に，表したいことや表し方を考えて，描いたり，つくったり，それらを飾ったりする活動		ア 経験したことや想像したこと，材料などを基に，表したいことや表し方を考えて，描いたり，つくったり，それらを飾ったりする活動		ア 感じ取ったことや考えたこと，目的や機能などを基に，描いたり，つくったりする活動		ア 感じ取ったことや考えたこと，目的や機能などを基に，描いたり，つくったりする活動	
思考力・判断力・表現力等	A 表現	(ｱ) 材料などから，表したいことを思い付くこと。		(ｱ) 材料や，感じたこと，想像したこと，見たことから表したいことを思い付くこと。		(ｱ) 材料や，感じたこと，想像したこと，見たこと，思ったことから表したいことを思い付くこと。		(ｱ) 経験したことや思ったこと，材料などを基に，表したいことや表し方を考えて，発想や構想をすること。		(ｱ) 経験したことや想像したこと，材料などを基に，表したいことや表し方を考えて，発想や構想をすること。		(ｱ) 対象や事象を見つめ感じ取ったことや考えたこと，伝えたり使ったりする目的や条件などを基に主題を生み出し，構成を創意工夫し，心豊かに表現する構想を練ること。		(ｱ) 対象や事象を深く見つめ感じ取ったことや考えたこと，伝えたり使ったりする目的や条件などを基に主題を生み出し，創造的な構成を工夫し，心豊かに表現する構想を練ること。	
		学習内容	●児童が自ら材料などに働きかけて感じた形や色，自分のイメージ などから造形的な活動を思い付くことを示している。児童は，小石の形や木の葉の色の面白さ，紙を破いたときの手応え，手の動きから生まれた形や色，材料と 材料の組み合わせなどから様々なことを思い付き，更に新しい発想をする。 ●いろいろな素材に触れ，握ったり押したりして形を変えたり，つくった りして，素材の可塑性に興味や関心をもってかかわることを楽しむこと	学習内容	●うれしかったこと，不思議に感じたこと，驚いたこと ●見たことや見 えるものに加えて，感じ取ったことを表現する中で，児童が大きいと感じた動物 はより大きく，赤いと感じた色はより赤く，小さなものや関心の低いものは表現 の対象から除かれるなど，見て感じたことが児童自身の表したいこととしてまと まり，それが素朴な表現であっても確かな自己表現へとつなげること	学習内容	●児童の生活に結び付いた学校行事，社会の行事，自然現象の体験など の題材や，童話などの親しみのある話などの題材の中から児童自身が決めること が大事である。このような題材では，児童が共通した経験をすることから，共同でかいたり，つくったりすること，学校行事で使う飾りや用具を協力してつくる ことなども考えられる。	学習内容	●自然の形や幾何学的な形を並べた り，繰り返したりして，模様や装飾に関心をもち，伝達機能をもつポスターなど の平面デザインでは，知らせる事項を考え，形や色彩の組合せを工夫するなどし て表現することなどである。 ●絵や版画の題材としては，静物や風景の観察や描写，学校行事や社会行事など の印象，想像画などがあり，版画の方法としては，木版，ゴム版，スチレンボー ド版などがある。デザインの題材としては，ポスター，案内表示・標識，表紙装 丁デザイン，カット，模様・装飾などがある。 ●つくることに関する指導では，主に，彫刻などの立体に表すこと，生活に役立 つ器物をつくることなどであり，生徒の感性や，材料の性質，用具の特性を生か して表現したり，工芸品の制作などでは制作工程や手順が分かり，完成の見通し をもってつくったりすることである。 ●彫刻や立体の題材としては，人，動物，乗り物，建物などが，工芸品の題材と しては，箱，筆立て，ペン皿，焼き物の器物などが挙げられる。 ●表現の方法としては，塑像や焼成工程のある器物の活用，いろいろな造形材料 の性質を生かした加工，塗装加工などが挙げられる。 ●飾ることに関する指導内容は，つくった作品を教室や廊下の掲示板に展示する ことや，実際に使用して，造形表現が生活に役立つことを経験し，関心を深めた り，愛着心をもって扱ったりすることである。	学習内容	●どの色とどの色が合うのかを考える，仕掛け や動く仕組みを工夫する，表したいことに合った材料を集めるなどが考えられる。その際，一人一人の生徒が心に思い描いたことを簡単な絵や図でかきとめたり， 直接材料を置いて表し方やつくり方を決めたりするなど，表しながら次第に自分 の考えをはっきりさせていく活動	学習内容	●絵や版画の題材としては，人物や動植物，静物や風景の観察や描写，学校行事や社会行事などの印象，想像画などがあり，版画の方法としては，紙版，木版，ゴム版，スチレンボード版などがある。デザインの題材としては，ポスター，案内表示・標識，表紙装丁デザイン，カット，模様・装飾などがある。 ●彫刻や立体の題材としては，人物，動植物，乗り物，建築物などが，工芸の種類としては，織物，紙工，革工，木工，金工，七宝焼きや焼き物の器物などが挙げられる。 ●材料を見たり触ったりしているときに感じたことやイメージなどを基に構成を工夫し，技能を働かせて具体的な形に表現していく活動。	学習内容	●自画像の制作においては，鏡を見て表面的に形や色彩を捉えさせるだけではなく，自分自身の気持ちや心の中を見つめさせることで，より深く自己を理解し，自分の感情やものの考え方，価値観に改めて気付く。 ●使用する多くの人たちの気持ちや身体に優しいデザイン，多様な人々が共有できる機能について考える。 ●構想の中には，主題を基に考えをまとめる構成的な側面からの構想と，材料や技法などの表現方法の側面からの構想がある。
技能		(ｲ) 身の回りの自然物などに触れながらかく，切る，ぬる，はるなどすること。		(ｲ) 身近な材料や用具を使い，かいたり，形をつくったりすること。		(ｲ) 様々な材料や用具を使い，工夫して絵をかいたり，作品をつくったりすること。		(ｲ) 材料や用具の扱いに親しみ，表したいことに合わせて，表し方を工夫し，材料や用具を選んで使い表すこと。		(ｲ) 材料や用具の扱い方を身に付け，表したいことに合わせて，材料や用具の特徴を生かしたり，それら を組み合わせたりして計画的に表すこと。		(ｲ) 材料や用具の特性の生かし方などを身に付け，意図に応じて表現方法を工夫して表すこと。		(ｲ) 材料や用具の特性の生かし方などを身に付け，意図に応じて表現方法を追求し，自分らしさを発揮して表すこと。	
		学習内容	●「かく，ぬる」などのかく遊びについては，地面や壁，机や廊下の床板，新聞 紙などが画用紙代わりになることもある。用具は，手指そのものであったり，棒 切れなどたまたま手にしているものがペンやクレヨンなどの用具に代わったりす ることもある。 ●「切る，はる」などのつくる遊びについては，素材そのものに触れて楽しむよ うな遊びから，つぶす，伸ばす，ちぎる，丸める，破る，接合する，積み上げる， 崩す，並べる，穴を開けるなど，造形材料の可塑性に気付き，手や体全体を働か せてつくり，造形遊びの楽しさを味わうことのできる活動が展開できるようにす る。□ ■【氷絵の具】 凍らせた絵の具を大きい模造紙の上で滑らせて変化を感じる。 ●【にぎりアート】 手に絵の具を付けてペットボトルや画用紙に色を付ける。 ●【粘土の感触に触れよう】 粘土をつぶしたり、ちぎったり、穴をあけたり、形が変わることに気付く。油粘土、小麦粘土、お米粘土、寒天粘土等、様々な粘土の感触に触れる。 ●【コラグラフ版画】 フルーツネットやシールなどを貼って台紙を作り、絵の具をつけて刷る。感触に触れながら台紙作りをする。	学習内容	●造形遊びでかかわる身近な自然物(土，砂，石，粘土，草木など)や，人工の材料(紙，新聞紙，段ボール，布，ビニル袋や シート，包装紙，紙袋，縄やひも，空き箱，スチレンボード，プラスティックなど)があり，用具には，クレヨンやパス，水彩絵の具，カラーペンなどに加えて， のり，粘着剤，ステープラー，はさみ，へら，シャベルなど ●「かいたり」とは，身近な人，動植物，自然，体験したことなどを題材にして， クレヨンやパス，水彩絵の具，カラーペンなどを使って表現することである。器 物の型を押したり，スタンピングを連続して模様をつくったりすること。 ●「形をつくったりすること」とは，かくことと同様に，見たり感じたりしたこ とを簡単な形に表し，その形で表したものに意味付けをして表すことである。土，紙材，草木，アルミ箔，箱，空き缶などを用い，のり，粘着剤，ステープ ラー，はさみ，へら，シャベルなどを使って，表したい形をつくること ●【おばけをつくろう】 ビニール袋にお花紙やデコレーションボール、毛糸を入れ輪ゴムで結び、目やロを付ける。いろいろな材料に触れられるようにする。 ●【粘土でお弁当を作ろう】 粘土でおにぎりやおかずを作りお弁当箱に詰めていく。その際、粘土ヘラや型抜き等の用具を使って作品が作れるようにする。 ●【どろどろ粘土でつくろう】 好きな色を混ぜた液体粘土に布をつけて形を作る。1時間目には、油粘土を使い、粘土に慣れる活動を行う。 ●【不思議な生き物】 魚の形に切った画用紙にマーブリングで色をつけ、台紙に色をつけた魚やお花紙、テープを貼り、海の様子を表す。竹串やフォークを使ってマーブリングの液を混ぜることで、書くことの経験を積めるようにする。	学習内容	●かいたり，つくったりする活動に介在する材料としては，身近にある土，砂，石，粘土，草 木などの自然物や，紙，布，積み木，アルミ箔，空き缶，スチレンボード，針金， プラスティック，ゴムなどの人工物など ●扱われる用具としては，2段階に例示したものに加え，かなづ ち，ペンチ，のこぎり，彫刻刀，くぎ，ねじ，接着剤など日常生活で扱われる簡 易な木材加工用具，金属加工用具 ●好きなもの を絵に表すとき，クレヨンやパスの色を選び，表し方を工夫して表す，思い浮か べた花を紙で表すとき，紙の切り方を工夫して表す，乗ってみたい乗り物を表す とき，粘土を丸めたりひねりだしたりする。 ●【木材を切って組み合わせよう】 木材をのこぎりやねじで切って組み合わせたり、彫刻刀で模様を付けたりして作品を作る。繰り返し材料・用具を使う経験をすることでイメージに合った材料・用具の選択や使い方を工夫できるようにする。 ●【動物を描こう】自分の描きたい動物を思い浮かべ、動物のイメージからクレヨンやパスの色や用具を選択し、表し方を工夫する。なかなかイメージできない児童には動物のイラストを用意する。	学習内容	●水彩絵の具を使いながら水の加減や色の混ぜ方を工夫したり，金づち を使いながら，釘を並べるように打ったりすることなどが考えられる。この段階 の生徒が扱う主な材料や用具としては，描画では水彩絵の具やポスターカラー， 色鉛筆，ペン，パステル，色紙など，立体では粘土，木，石，紙，釘，彫刻刀， 金づち，のこぎりなどが挙げられる。これらの材料の中から表現に合う素材を選 択し，その特徴と使い方や用具の扱い方を理解し，生かしていくことができるよ うに体験を積み重ねていくことが必要である。 ●【ポスターを作ろう】 伝えたいことや目的に合わせてデザインを考え、形や色彩の組み合わせを工夫して表現する。 ●【生活に役立つものを作ろう】 いろいろな材料の性質を生かした加工、塗装加工をしながら、箱、筆立て、ペン皿、焼き物等の生活に役立つ作品を作る。機械を使用する際、安全に関する指導を合わせて行う。 ●【等身大の私】 大きい紙に人型・手形・足形をクレヨンで描き、その上から絵の具をつけたボールを転がしたり、ローラーで色をつけたりして、自分の描きたいものを表現する。	学習内容	●材料や用具の特徴の生かし方では，1段階での学習を発展させて，鋭い 感じ，滑らかな感じ，重さ，丈夫さなどの材料の特徴を表現に生かすことや，あ るいは，削る，つなぐなどの用具の特徴を生かして使うことなどが考えられる。また，のこぎりで板材を切る，板を釘でとめる，刷毛で太い線や面をかくなど， 生徒が様々な生かし方を試みること。 ●材料としては，描く活動では，絵や版画で表したり，平面のデザインをしたり する際の材料のほか，つくる活動では，粘土，紙，石，布，木，金属，プラスティッ ク，スチレンボード，ニス，水性・油性塗料などがある。また，これらの材料の ほか，建築，土木工業用の資材なども，その対象にすることが可能であり，表現 の目的に合った材料の選択肢を広げる観点で取り上げる。主な用具は，水彩絵の具，塗装用具，接着剤，彫刻刀，簡易な木材・金属加工 用具，電動の糸のこぎりや研磨機などの電動工具など ●【スケッチしよう】 自分の好きな花や身の回りの物のスケッチをし、物の特徴に合わせて用具や材料を選択する。 ●【電動工具を使ってみよう】 期限に間に合うように計画を立て、糸のこぎりや研摩機などの電動工具を使って製作をする。用具の難易度が生徒の手指等の機能や活動に対する理解に応じたものであるか留意する。	学習内容	●生徒が扱う材料としては，描画では水彩絵の具やポスターカラー絵の具，墨，色鉛筆，ペン，パステル，色紙など，立体では粘土，木，石，紙，布，金属，プラスティック，スチレンボード，ニス，水性・油性塗料などがある。 ●用具としては，塗装用具，接着剤，彫刻刀，簡易な木材・金属加工用具，糸のこ盤や研磨機などの電動工具などが挙げられる。 ●立体としての形の表し方については，いろいろな角度から形体を捉え，立体としての量感や動勢などに気付かせて表現させるようにする。粘土や段ボール，厚紙などの紙素材など，扱う材料を限定することにより，立体で表現する力を育成する。	学習内容	●材料や用具の特性の生かし方などを身に付け，発想や構想したことなどを基に，意図に応じて表現方法を追求し，自分らしさを発揮して表す技能の獲得。

図工・美術（鑑賞） 学習段階表

		小学部						中学部				高等部			
		1段階		2段階		3段階		1段階		2段階		1段階		2段階	
	領域	ア 身の回りにあるものや自分たちの作品などを鑑賞する活動		ア 身の回りにあるものや自分た ちの作品などを鑑賞する活動		ア 自分たちの作品や身の回りに ある作品などを鑑賞する活動		ア 自分たちの作品や身近な造形品の鑑賞の活動		ア 自分たちの作品や美術作品などの鑑賞の活動		ア 美術作品や生活の中の美術の働き，美術文化などの鑑賞の活動		ア 美術作品や生活の中の美術の働き，美術文化などの鑑賞の活動	
思考力・判断力・表現力等	B 鑑賞	(ｱ) 身の回りにあるものなどを見 ること。		(ｱ) 身近にあるものなどの形や色の面白さについて感じ取り，自分の見方や感じ方を広げること。		(ｱ) 自分たちの作品や，日常生活の中にあるものなどの形や色，表し方の面白さなどについて，感じ取り，自分の見方や感じ方を広げること。		(ｱ) 自分たちの作品や身近な造形品の制作の過程などの鑑賞を通して，よさや面白さに気付き，自分の見 方や感じ方を広げること。		(ｱ) 自分たちの作品や美術作品などを鑑賞して，よさ や面白さ，美しさを感じ取り，自分の見方や感じ方 を深めること。		(ｱ) 美術作品などの造形的なよさや美しさを感じ取り，作者の心情や表現の意図と工夫などについて考えるなどして，見方や感じ方を広げること。		(ｱ) 美術作品などの造形的なよさや美しさを感じ取り，作者の心情や表現の意図と創造的な工夫などについて考えるなどして，見方や感じ方を深めること。	
		学習内容	●自分や友達の作品や造形 活動で用いられる材料などを見たり触ったりすること。	学習内容	●指先で触る，手のひらで包み込 むように触る，抱きかかえるように触る，持ち上げるなど児童が様々に作品など を触ること	学習内容	●自他の作品に題名や名前を付けて飾った り，作品を見ながら表現した内容を説明したり聞いたりして，形や色，表し方の 面白さなどについて感じ取ること ●材料や用具の置き場を考慮し，材料や用具を取りに行ったり自分の場所に戻ってきたりする途中で鑑賞できるようにする。教室 で活動する場合，席を班の形にして，互いの活動や作品が目に入るようにする。作品を保管する棚や机を，作品置き場としてだけでなく，児童が自分の作品や友 達の作品を鑑賞する場とする。	学習内容	●お面の制作の過程で，骨組みの形の面白さに気付くことなどが挙 げられる。ここでは，対象を自分の見方や感じ方で捉え，そこに新しい意味や価値を発見するなどして，生活の中で生きて働く見方や感じ方を広げることが大切 である。	学習内容	●自分たちの作品や美術作品などを進んで見たり，触ったり，他の生 徒と感じ取ったことや考えたことを話し合ったりするなど，自ら働きかけることを通して，対象がもつ形や色彩などのよさや面白さ，美しさを自分なりに味わっ たりしながら，自分の見方や感じ方を深めること。	学習内容	●対象をじっくりと見つめる時間を大切にし，自分の感覚で素直に味わうとともに，教師が示した課題や助言などを基に，形や色彩，材料などに視点を置いて感じ取ったり考えたりする。 ●作者の関心や発想，作品に込められた心情，その作品によって何を表現したかったのかという意図と，それがどのように表現されているかという工夫について考える。 ●デザインや工芸などの作品などからは，使う人に対する作者の温かい心遣い，作品に込められた作者の思いや願いなどに基づいた表現の工夫について考える。	学習内容	●対象の形や色彩などの特徴や印象などから内面や全体の感じ，価値や情緒などを感じ取り，外形には見えない本質的なよさや美しさなども捉えようとする。 ●作者の生きた時代や社会的背景など幅広い視点から捉えた作者の心情や表現の意図と創造的な工夫について考える。 ●デザインや工芸などの作品などからは，使う人や場を考えた作者の温かい心遣いや，作品の主題や表現の意図などに基づいた創造的な工夫について考える。
								(ｲ) 表し方や材料による印象の違いなどに気付き，自分の見方や感じ方を広げること。		(ｲ) 表し方や材料による特徴の違いなどを捉え，自分 の見方や感じ方を深めること。		(ｲ) 生活の中の美術や文化遺産などのよさや美しさを感じ取り，生活を美しく豊かにする美術の働きや美術文化について考えるなどして，見方や感じ方を広げること。		(ｲ) 生活や社会の中の美術や文化遺産などのよさや美しさを感じ取り，生活や社会を美しく豊かにする美術の働きや美術文化について考えるなどして，見方や感じ方を深めること。	
								学習内容	●「自然」というテーマが同じでも，一人一人の心の中に思 い描いた表したいことによってその表し方は違ってくる。また，扱う材料や使う 用具によって全体から感じられる印象も変わってくる。	学習内容	●材料などの特徴としては，形や色彩，質感，奥行き，動きなどが挙げら れる。形がつくりだす動き，色の調子の多彩さ，材料の質感による効果，それら が組み合わさって生まれる変化などが考えられる。 ●校外学習などと関連させて美術館 を見学したり，校内の作品展などを開催し，自分たちの作品を重点的に鑑賞した りできるようにすることが挙げられる。	学習内容	●文化遺産などの鑑賞を通して，その特性やよさに気付き，美術文化と伝統を実感的に捉える。 ●身の回りにある自然物や人工物の造形的な美しさなどを感じ取り，生活を美しく豊かにする美術の働きについて考える。	学習内容	●動植物や自然物，四季や自然現象，風景などの自然や，公園や建造物，街並みなどの環境の中に見られる造形的な美しさを感じ取る。 ●人間は，形，色彩，材料，光，空間などにより，明るい開放感や落ち着いた雰囲気，心が躍るような楽しさなどを感じることができる。また，自然や優しさのある環境は，精神的な温かみやくつろぎを与えてくれる。このような造形や美術の働きに気付き，それを豊かに感じ取ろうとする。

図工・美術（共通事項） 学習段階表

		小学部						中学部				高等部			
		1段階		2段階		3段階		1段階		2段階		1段階		2段階	
	領域	ア 「A 表現」及び「B 鑑賞」の指導													
知識	［共通事項］	(ア) 自分が感じたことや行ったことを通して，形や色などについて気付くこと。		(ア) 自分が感じたことや行ったことを通して，形や色などの違いに気付くこと。		(ア) 自分の感覚や行為を通して，形や色などの感じに気付くこと。		(ア) 形や色彩，材料や光などの特徴について知ること。		(ア) 形や色彩，材料や光などの特徴について理解すること。		(ア) 形や色彩，材料や光などの働きを理解すること。		(ア) 形や色彩，材料や光などの働きを理解すること。	
		学習内容	●材料の大き さを自分の体と比べる，ふわふわした材料の感触を体中で味わうなどが考えられ る。 ●【変ないきもの】 ビニール袋の中に毛糸、綿、シュレッダー片、丸めたお花紙などを入れ、ビニール袋に目や口、手をつける。様々な材料に触れ、大きさや感触を味わえるようにする。 ●【ちぎってはろう】 画用紙やお花紙をちぎり、真ん中を切り抜いた紙皿に貼ってリースを作る。手全体や指先を使って紙をちぎる感覚を味わえるようにする。	学習内容	●自分の好きなもの，見たことのあるもの，心地よいものなど に触れたときの自分なりの感覚のこと。 ●【クリスマスツリー】 丸く切った段ボールをだんだん小さくなるように積み重ねてクリスマスツリーを作る。 ●【似た色を選んで作品を作ろう】 身近なものを絵の具の赤やオレンジ、青や水色などから選択し色をつける。 ●【おばけを作ろう】 ペットボトルにちぎったお花紙を入れて振り、網に流す。できたお花紙を台紙に貼り、目や口をつけてお化けを作る。 ●【どろどろ粘土でつくろう】 好きな色を混ぜた液体粘土に布をつけて形を作る。1時間目には、油粘土を使い、粘土に慣れる活動を行う。	学習内容	●形の柔らかさ，色の暖かさ，色の組合せによる優しい感じ，面と面の重なりから生まれる前後の感じ，色の明るさによる感じの違い，質感など，学 習活動，扱う材料や用具などにより，様々な内容が考えられる。具体的には，絵 の具を混ぜたり水の量を考えたりすることで色の感じに気付くこと，様々な板材 を組み合わせることで形を組み合わせた感じに気付くこと，様々な材料に触れ選 ぶことで材料の質感に気付くこと。 ●【絵の具を混ぜて描こう】 赤・青・黄色3色の絵の具を用意し、絵の具を混ぜてできた色から、自分の描きたいものを描く。 ●【〇△□で作ろう】 〇△□の画用紙（段ボール）を組み合わせてできた形から身近な物を連想して作品を作る。	学習内容	●形や色彩などの特 徴に気付き，それが表現したり鑑賞したりするときの手掛かりになることに気付 いたり，知ること ●【好きな景色を描こう】 実際に行ったことのある場所の中で好きな景色を描く。描きたい景色は朝、夕 方、夜など、どの時間帯なのか明るさや光を意識して描けるようにする。 ●【紙粘土で作ろう】 野菜や果物を見ながら紙粘土で形を作り、絵の具で色を付ける。実物の形や色に注目し、表現できるようにする。 ●【帽子を作ろう】 三角の帽子（三角の帽子型の台紙に液体粘土をつける）と丸い帽子（ボールに布をかぶせ液体粘土をつける）のどちらか選んで作る。イメージが膨らむように、事前に画用紙に色を塗り、帽子のデザインを考える。	学習内容	●発想や構想をするときに，「ここは 動いている雰囲気にしたいから勢いよく描こう」，「この材料とこの材料を組み合 わせると，見た印象はどうなるだろう」など，豊かに発想し構想を練ることにつ ながることが考えられる。 ●【生き物の絵を描こう】 動物や虫、魚など自分の好きな生き物を描く。その際、勢いよく描いたり、やさしく丁寧に描いたり、描きたい生き物の様子に合わせて工夫して描けるようにする。 ●【組み合わせて作ろう】 動物や乗り物など、自分の作りたいもののイメージに合わせ、様々な材料を組み合わせながら作品を作る。	学習内容	●作品などの造形の要素などに着目させて，視角や触覚等で，色彩の色味や明るさ，鮮やかさや，材料の性質や質感を感じ，形の優しさ，色の楽しさや寂しさ，木の温かさ，光の柔らかさ，形や色彩などの組合せによる美しさなどについて心で感じ取る。	学習内容	●作風や様式などで捉えるということの理解から，「霧のかかった景色が水墨画のようだ」，「この作品は印象派の雰囲気がある」など，全体を文化的な視点から捉える。
思・判・表		(イ) 形や色などを基に，自分のイメージをもつこと。		(イ) 形や色などを基に，自分のイメージをもつこと。		(イ) 形や色などの感じを基に，自分のイメージをもつこと。		(イ) 造形的な特徴などからイメージをもつこと。		(イ) 造形的な特徴などからイメージを捉えること。		(イ) 造形的な特徴などから全体のイメージで捉えることを理解すること。		(イ) 造形的な特徴などから全体のイメージで捉えることを理解すること。	
		学習内容	●自分の手の動きから生まれた線を「ぐんと伸びている」と感じたり，色が「ぱっ と広がる」と感じたりする気持ちで使っている。	学習内容	●浮かんでいる雲を「わたあめみたい」と話したり，色水を混ぜて，「ジュー スみたい」とつぶやいたりなど，偶然見つけた形から自分のイメージをもつ。	学習内容	●「材料が白くてふわふわしていたから，ウサギを思い付いた」，「絵の具のにじんだ様子を生かして不思議な世界を表し た」，「粘土をかき出して大きな穴を開けたら，穴の中に住む生き物を思い付いた」など，イメージと形や色の感じとの関係が2段階よりも具体的になる。児童はそ こから発想や構想を広げたり，話し合ったりするなど，表現や鑑賞の活動を展開 する。	学習内容	●造形的な特徴などから何かに見立てたり，「かわ いい」，「寂しい」などの心情などと関連付けたりすることによって，具体的に自 分なりのイメージをもてるようになることなどはその一例である。	学習内容	●造形的な特徴などから「この木の葉は手に見える」などのように見 立てることや，「絵から感じられる寂しさが，夕焼けの景色を見た情景と似ている」 など，心情と関連付けてイメージを捉えることなどがその例である。	学習内容		学習内容	